

模擬 G7 サミット 2018 を終えて

**運営実行委員：渋谷教育学園渋谷高等学校 2年 石川満留、一瀬ルアナ、伊藤有紀、北原璃莉奈、
小山菜奈、小山紗英**

8月2日、渋谷教育学園渋谷中学高等学校に、地球社会が抱える問題解決に強い関心を持つ高校生30名が集まり、「若者の社会参画」について考えました。今年の参加校は、共立女子第二高等学校、国際基督教大学高等学校、学習院高等科、都立小石川中等教育学校、渋谷教育学園渋谷中学高等学校、成蹊高校、女子学院、都立千早高校、筑波大学附属駒場中学校、豊島岡女子学園高等学校、都立西高校、広尾学園高等学校、広島女学院高等学校、松が谷高校、武蔵高校、横浜雙葉高等学校、早稲田大学高等学院の17校でした。

まずは、初対面同士で構成されたグループということでアイスブレイクを行い、また、G7 Canada Youth Head Delegate of Japan である松村謙太郎氏（東京大学法学部3年）にお話をいただくことによって、全体のモチベーションを高めました。次に、私たち運営実行委員が「日本と海外の若者の社会参画」についてのプレゼンテーションを、クイズを交えながら行いました。日本の若者はボランティアや政治的活動などにどれほど参加しているのか等、後のグループディスカッションに必要な現状の基礎知識や問題点をいくつか提起しました。活発な意見交換が行われ、クイズにも一生懸命に答えていただき、とても嬉しかったです。

今回のグループディスカッションは、英語で話し合いをする班が5つ、日本語班が1つ、計6つの班で行われました。どの班も、参加者一人ひとりが問題意識を持って積極的に取り組んでいました。模造紙や付箋紙に沢山の意見やアイデアを書き出すことでグループ内の議論を活発にしようと、工夫して意見交換を行っていました。各自が「社会参画」をどう捉えているのか、なぜ日本では「社会参画」についての意識が低いのか等、議論は多方面に渡り、他国と比較した上で、日本ではどのような意識改革が必要なのか、どんな政策が必要とされるのか等、グループごとに決めた視点で意見を出し合い、政策を考えていました。

最後は、班ごとに日本における若者の社会参画の問題点や解決策などをポスターにまとめ、英語で発表していただきました。政治や文化に対して個々に意見を持つことができるようにするための教育を幼い頃から行うことや、インターネットを利用して若者が発する意見に専門機関が随時コメントできるようなシステムを作ることなど、面白い意見がたくさん出ました。多様な意見が出る中でも、皆、日本における若者の消極的な社会参画を問題視していて、より活性化するには若者自身が活動をする意欲を見せる必要があり、それが若者の意識を高めて行くのだと共通して訴えていました。

終了後、「日本で若者の社会参画があまり身近に思えないことは残念なので、何かアクションを起こしたい」「中学生の時からこの模擬 G7 に参加しているが、毎回違うことを学べるので面白い」などの感想を受け、企画した甲斐があったなと実感することができ嬉しかったです。また、普段英語を使わない生徒も、「こうやって英語でディスカッションする機会ができて嬉しい」と言ってくれました。今回は特に話し合う要素が多く難しいテーマでしたが、生徒の皆さんに意欲的に参加していただき、とても実りのあるイベントとなりました。本当にありがとうございました。

模擬 G7 サミット 2019 は 8 月第 1 週に開催する予定です。企画、運営から参加したいという方は HPDU の北原先生に連絡してみてください。



(文責：石川満留、北原璃莉奈)